

## 代表理事（会長）ならびに副会長について

神奈川陸上競技協会の河野太郎代表理事（会長）が国務大臣に就任され、国務大臣在任期間中は、法人格の代表理事職に就けなため、10月7日付で代表理事を辞任されました。

このため、定款第39条第1項(2)ならびに第40条により10月29日に臨時評議員会ならびに理事会を開催し、次のように新代表理事ならびに新副会長が選定決定されましたのでご報告します。

代表理事(会長)	橋川 眞佐志
副会長	皆川 敏明



## 平成27年度の競技会を振り返って

競技運営委員長 小澤 清治

平成27年度は、4月第1回県記録会、5月3年振りのゴールデンランプリ（新装等々力）、6～7月県選手権、8月国体選考会／第2回記録会、全国小学生、10月長距離記録会、ジュニアオリンピック／日本選手権リレーと予定していた競技会に加え運営協力の5月関東学生選手権（4日間連続）、6月日本学生個人選手権、7月実業団対学生とトラック&フィールドの競技会を無事終了することが出来ました。これも各郡市陸協審判員の皆様のお陰と感謝しております。県内レベルから全国大会、国際大会と多岐に渡る競技会、中でもゴールデンランプリはIAAFルール適用とテレビ中継で大変ご苦勞をお掛けしました。

県内競技会における競技者のエントリー状況を見ると、第1回県記録会 H25年 5,288 ⇒ H26年 5,444 ⇒ H27年 5,610、県選手権 H25年 1,111 ⇒ H26年 1,210 ⇒ H27年 1,232、第2回記録会 H25年 2,882 ⇒ H26年 2,840 ⇒ H27年 3,194 といずれも増加傾向にあり、競技終了時間の延長等審判各位の負担が増大しています。各競技会の審判編成は、各郡市陸協の審判講習会で年間予定競技会の開催日毎の出席可否調査を行い、出席可の皆様中心に各大会平均360名の方々に委嘱をさせて頂いております。しかし、年間の出席平均はH25年54%、H26年57%、H27年57%であり、4班～5班編成を必要とする跳躍審判中心に各係で競技会運営に支障を来しています。是非神奈川県の将来を担う競技者により良い競技環境の実現と出席役員の負担軽減のためにも、多くの審判員の皆様のご協力をお願い致します。

H32（2020）年の東京オリンピックに向けて、競技規則も「国内」を外し、IAAFの規則と合わせる動きが予想されます。毎年3月の審判講習会には必ず出席し、最新の競技規則に基づく競技運営をお願い致します。

これからロードシーズンになり、1月箱根駅伝、2月かながわ駅伝と続きます。横浜国際女子マラソンが無くなりましたので、審判員の皆様には来年度に向け英気を養って頂きたいと思っております。



## 和歌山国体を振り返って

和歌山国体 神奈川県選手団  
総監督 松尾 正弘

第70回国民体育大会（和歌山大会）は10月2日（金）～6日（火）までの5日間、和歌山市紀三井寺陸上競技場で開催されました。今年の国体は、監督とスタッフを新体制で臨んだこともあり共通理解を図りながら準備をしてきました。

今年のチームは、世界選手権出場選手3名、男女共に久しぶりにリレーチームを編成できたこと等、昨年の長崎国体よりチーム力が上回ったこともあり100点以上の得点で3位以内を目標に、スタッフも手応えをもって和歌山入りをしました。

成年の選手には、国際大会、日本選手権や全日本ICで上位入賞するなど経験豊富な選手が多く、安定した戦いができ、確実に得点を重ねることができると予想していました。しかし、調整や修正が間に合わず予定通りの戦いができなかつたより得点が伸びなかつたのが非常に残念でした。ただ、「チーム神奈川」への思いと競技に取り組む姿勢と一言は少年たちに勇気と刺激を与えることができたことは流石でした。少年の選手は、IHの雪辱を期する選手、昨年の国体の悔しさをはらす選手等いろいろな思いを胸に戦った選手が多く、印象に残った場面もたくさんあり感動することができました。

今回の国体が2回目出場、成年400mに出場した小林直己選手の初優勝はチームに勢いをつけ、各選手が活躍する大きなきっかけになりました。その結果少年選手6人が自己ベストを出すことができ、その中でも石川昌弥選手は見事、県高校新記録を樹立して4位入賞することができました。

今回の大会は「チーム神奈川として戦う」ことをスローガンにあげて臨んだ結果が好成績につながったと思っています。

最後まで諦めることなく戦い抜いた選手の皆さん、早朝より夜遅くまで「チーム神奈川」のために全力で協力と支援をいただいたコーチ陣の皆さん、そしてご声援と応援をいただいた皆さんに、この場をお借りして感謝申し上げます。

ありがとうございました。

**第70回国民体育大会(2015紀の国わかやま国体)**  
 2015(平成27)年10月2(金)~6(火)  
 和歌山市・紀三井寺公園陸上競技場

**神奈川県選手団 大会結果**  
 [ 天皇杯 96.5点 第5位 皇后杯 31点 第12位 ]

《男子》

種別	種目	氏名	所属	予選	準決勝	決勝	得点
成年	100m	谷口耕太郎	中央大学3年	10秒60(-1.2) 2着	10秒56(+0.2) 4着		
	400m	小林 直己	東海大学3年	47秒45 1着		46秒87 1位	8
	110mH	古谷 拓夢	早稲田大学1年	DQT1			
	400mH	松下 祐樹	チームミズノ	50秒97 2着		51秒10 6位	3
	1000mW	松永 大介	東洋大学3年			40分39秒00 4位	5
	走高跳	高張 広海	日立ICT			2m18 3位	6
少年A	棒高跳	永田 純也	横浜市陸協			NM	
	100m	平岡 誠大	菅高校3年	10秒56(+5.0) 1着	10秒72(+2.0) 6着		
	400m	中机 陽彦	相洋高校2年	48秒00 3着	47秒56 PB 2着	47秒93 4位	5
	400mH	高田 一就	法政大第二高校3年	53秒42 3着	52秒25 1着	52秒11 3位	6
	棒高跳	江島 雅紀	荇田高校2年			5m00 2位	6.5
	走り幅跳	小田 大雅	桐蔭学園高校2年			7m23 6位	3
少年B	100m	渡邊 守汰	三浦学苑高校1年	11秒01(±0.0) PB 2着	11秒15(-0.5) 7着		
	110mH	川上明日麻	荇田高校1年	14秒54 2着		14秒26 PB 3位	6
少年共通	800m	小川 智也	相洋高校3年	1分53秒08 4着	1分54秒68 5着		
	5000mW	石川 昌弥	横浜高校3年			20分26秒80 県高新 4位	5
	走高跳	橋本 陸	川崎市橘高校3年			2m12 PB 2位	7
少年A	三段跳	小林 慎弥	菅高校3年			14m32(+1.9) 16位	
	成年	4×100mR	草野 誓也	TeamAccel	①	①	①
谷口耕太郎			中央大学3年	②	②	②	
平岡 誠大			菅高校3年	③	③	③	
渡邊 守汰			三浦学苑高校1年	④	④	④	

《女子》

種別	種目	氏名	所属	予選	準決勝	決勝	得点
成年	100m	蔭山 愛	小田原市役所	12秒17(-0.8) 4着	12秒07(±0.0) 6着		
	1500m	森田 香織	パナソニック			4分35秒05 10位	
	やり投	山内 愛	大阪成蹊大学3年			52m14 5位	4
少年A	100m	大石 沙南	相洋高校3年	11秒98(+3.3) 4着	12秒02(+1.5) 4着		
	400m	青木 りん	相洋高校2年	56秒26 1着	55秒84 2着	55秒41 3位	6
	3000m	佐藤 成葉	荇田高校3年			9分14秒60 PB 4位	5
	400mH	小山 佳奈	川崎市橘高校2年	1分00秒41 2着	59秒95 2着	1分00秒85 7位	2
少年B	100m	前田 柚奈	荇田高校1年	12秒66(-3.0) 5着			
	1500m	リンズィー・ヘレナ芽衣	横浜市金沢高校1年	4分26秒91 3着		4分20秒57 PB 5位	4
少年A	4×100mR	大石 沙南	相洋高校3年	①	①	5着	
		杉山 薫	相洋高校3年	②	②		
		蔭山 愛	小田原市役所	③	③		
		前田 柚奈	荇田高校1年	④	④		

PB: 自己新

男子競技得点	女子競技得点	参加点	天皇杯総合得点	天皇杯順位
<b>65.5点</b>	<b>21点</b>	<b>10点</b>	<b>96.5点</b>	<b>5位</b>
	女子競技得点	参加点	皇后杯総合得点	皇后杯順位
	<b>21点</b>	<b>10点</b>	<b>31点</b>	<b>12位</b>

順位	男女総合(天皇杯)		順位	女子総合(皇后杯)	
第1位	京都	122.5	第1位	大阪	79
第2位	東京	119.5	第2位	京都	67
第3位	大阪	112	第3位	東京	66
第4位	北海道	100	第4位	北海道	64
<b>第5位</b>	<b>神奈川県</b>	<b>96.5</b>	第5位	埼玉	55
第6位	群馬	87.5	第6位	岡山	54
第7位	埼玉	86	第7位	愛知	50
第8位	兵庫	84	第8位	兵庫	47
			<b>第12位</b>	<b>神奈川県</b>	<b>31</b>

◎第31回東日本女子駅伝競走大会

平成27年11月9日(日) 12時05分スタート  
 日本陸連公認「FTVふくしま」マラソン・コース 9区間 42,195km

**神奈川県チーム区間記録及び総合成績 総合第4位 2時間19分18秒**

区間	距離	氏名	所属	区間記録	区間順位	通算記録	通算順位
1	6.0km	森田 香織	パナソニック	19分25秒	6	19分25秒	6
2	4.0km	赤坂 よもぎ	名城大学	13分33秒	8	32分58秒	8
3	3.0km	リンズィー・ヘレナ芽衣	横浜市立金沢高校	10分05秒	2	43分03秒	6
4	3.0km	滑川 由紀	中川西中学校	10分04秒	11	53分07秒	6
5	5.087km	鈴木 ひとみ	パナソニック	17分03秒	3	1時間10分10秒	5
6	4.107km	佐藤 成葉	荇田高校	13分05秒	2	1時間23分15秒	3
7	4.0km	長濱 夕海香	三浦学苑高校	13分02秒	区間賞	1時間36分17秒	3
8	3.0km	茅野 珠里	西中原中学校	9分52秒	10	1時間46分09秒	3
9	10.0km	出水田 真紀	立教大学	33分09秒	8	2時間19分18秒	4

## 【上位入賞】

順位	都道府県名	記録	備考
優勝	千葉	2時間 17分 27秒	
2位	東京	2時間 18分 03秒	
3位	栃木	2時間 18分 58秒	
4位	神奈川	<b>2時間 19分 18秒</b>	
5位	埼玉	2時間 20分 08秒	
6位	静岡	2時間 20分 34秒	
7位	長野	2時間 20分 50秒	
8位	山梨	2時間 21分 12秒	

## ◎神奈川から世界陸上に



### 世界陸上に出場して

チームミズノ 松下 祐樹

今大会で予選、準決勝と2レース走りましたが、予選は自分の力を出すことができても勝負出来ると手応えを感じ、準決勝では周りのレベルに圧倒されてしまいまだまだ力不足であると感じ、来年のリオ五輪へ向けての自信と課題を得ることが出来ました。オリンピックのトラック種目でのファイナリストは過去にいないので、自分が日本人初のファイナリストとなれるよう、そしてさらなる高みを目指してメダリストになれるよう、この大会での経験を糧にまた精進していきたいと思っています。

### 第15回世界陸上競技選手権大会に出場して

東海大学 小林 直己

8月に中国・北京で行われた世界選手権に4×400mRの代表として初めて出場させて頂きました。

これまで夢に見ていた舞台上で走ることのできる喜びを感じると共に、今の自分と世界の選手との大きな力の差を痛感する試合となりました。来年、2016年にはリオデジャネイロ五輪が開催されます。世界陸上で得た刺激と経験を活かし、また少しでも世界に近づくことを目標に頑張っていきたいと思っています。

## ◎インターハイ優勝者

法政二高 高田 一就

7月29日から8月2日の5日間、和歌山県で行われた全国高校総体において、400メートルハードルで50秒27の大会新記録で優勝することが出来ました。全国高校総体という舞台でこのような最高の結果を残すことが出来たのも、いつも熱心に指導して下さった顧問の先生をはじめ、部の仲間や、支えてくれた家族、応援して下さった方々に感謝しています。この結果に満足せず、これからも次の目標へ向かって日々精進していきます。



## ◎全日中入賞者

### 第42回全日本中学校陸上競技選手権大会に入賞して

旭北中学校 須田 竜一

全中では日ごろの練習の成果が入賞という形となってうれしさを感じる反面、負けた悔しさも感じる大会でした。決勝のラスト100mで二人に抜かれた時、勝とうという気持ちよりもせめて3位に入りたくないと弱気になったところ、もう一人に抜かれ4位となってしまいました。競り負けてしまい、気持ちで負けてしまったと感じたので、高校では、自分に厳しくし、気持ちを強くして、タイムを上げられるように頑張りたいです。

西中原中学校 本多 美沙

私は、全国大会の四種競技で5位に入賞することができました。砲丸投以外の種目でベストタイムが出て、追い風参考でしたが総合得点も自己ベストを出すことができました。しかし、目標にしていた記録には届きませんでした。入賞できたのはうれしいですが、ここで満足して終わらないようにしたいです。高校ではまたいちから取り組んで練習を積んでいきたいです。インターハイに出場して結果を残せるように頑張ります。

## ◎第 15 回女性部 講習会・総会を開催

平成 27 年 11 月 14 日 (土) 横浜ビジネスパーク ウェストタワー 7F 会議室

講習会：第一部「女性審判員の役割の重要性～東京オリンピックに向けて～」

講師：鈴木 一弘氏 (日本陸上競技連盟 競技運営委員会 委員長)

第二部「オリンピックの原点から見たスポーツの未来」

講師：田原 淳子氏 (国土館大学 教授)



## ◎ 2015 ジュニアオリンピック・日本選手権リレー 資格審査・プロ編成作業

延べ 200 名近い方々 (中学校の先生方を含む) により、競技者の資格審査・プログラム編成 (競技者の氏名確認、等) が 9 月 25 日 (金) ~ 28 日 (月) 日産スタジアム 317 会議室で実施されました。



## ◎ 郡市陸協だより (第 2 回目)

### 横浜市陸上競技協会

本協会は、創設 68 年の歴史を持ち近年では毎年 2000 人を超える登録者で運営されております。

拠点競技場は三ツ沢公園陸上競技場で、昭和 26 年建設という古い歴史を持ち、国体や全国高校総体など全国規模の競技会を数多く開催してきております。現在では全国・国際大会規模の競技会は、第一種競技場の日産スタジアムを使用し競技会を開催しておりますが、横浜市民には昔からなじみの深い三ツ沢をメインとし、多くの競技会と普及事業をおこなっております。

三ツ沢公園陸上競技場は、本年 10 月末より公認継続のための改修に入ります。旧年中より念願であったサブトラックの全天候仕様への改修についても、横浜市のご厚意により意見を取り入れていただき改修することとなりました。本協会を始め中体連・高体連共に感謝しております。

本協会の活動について少し説明させていただきます。本協会では競技会事業として競技部を中心とし、横浜市民大会・横浜市選手権大会・第 1 ~ 6 回記録会の計 8 競技会を開催しており、小・中・高校・一般と幅広い競技者層に、多くの競技会の機会を提供できていると思っております。普及事業では普及部を中心とし、「ジュニア陸上教室」月 1 回 (4 ~ 9 月 8 月除く) 全 5 回の事業と冬季陸上競技講習会として、12 ~ 3 月に全 8 回 (第 6 回記録会含む) の講習会を開催し、同時にジュニア競技力向上事業として横浜市内の小・中学校の優秀な選手の練習会もおこなっております。また、小学生を対象とした、春と秋の記録会や駅伝大会なども開催しており、年齢層の低い人達を中心に陸上競技の普及発展に力を注いでおります。

どの協会でも頭を悩ませている審判員の高齢化と減少について、本協会でも同様に大きな問題と定義しております。本協会では若い世代の勧誘と同時に、現在活躍していただいている審判員の方々にも活動しやすい場の設定と、やる気を出していただくための協会としてできることを考え、実行に移して行けるように努力しております。長年やっていただいている方への「特別功労賞」や、審判員として必要不可欠な物の支給など、その一環としておこなっております。良いご意見がありましたら是非いただきたいと思っております。最後になりますが、本協会は今後も神奈川陸上競技協会と密なる連携を取り、陸上競技の発展と普及に努め、厳正・適正なる審判員の育成に取り組んでまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(文責 理事長田辺)

※次回は、横須賀市陸上競技協会にお願いします。